

にこりこー帯にぎわい会議 検討のまとめ (集約版)

【総論】

一帯を住民が訪れたいくなる理由や、対外的な広告塔としての役割、その意味での道の駅の認定など、農家の所得向上機能に加え、今日的な新しい「あるべき姿」が必要。

各施設の運営に専門性や実績のある運営主体が経営を担う
経営を運営主体の責任で行い、公益として依頼するものは成果と対価を示す

一帯の施設間・果樹団地を相互に活かした運用ができる駅長
町は基本的に経営に関与しないこと が必要
公社は観光に特化した会社であり、運営主体としてはいかなものか。

○一帯の「あるべき姿」(コンセプト)

→町民が行きたくなる場所

→箕輪の農の作る価値を伝え、楽しむことができる場

○運営主体について

・公社がすべて請け負う体制をやめ、基本的に建物と土地の管理を公社が請負い、各施設は建物に「テナント」を募集する。

・町が公益として依頼したいものは個別に費用を算定し、成果基準を明確にし、テナントと個別契約にする。

・一帯として連携して運営するのであれば、駅長を募集する。

・町内8割の農家が会員であり、八乙女共撰所、果樹団地の運営に関わるJAとの協力関係をつくる

・振興公社の経営の責任と自由度を上げるため、現在8割町が出資する資本金の資本比率を引き下げるとともに、町長・副町長は経営幹部を退く。

【施設別の協議及び提言】

○農産物直売所 にこりこ

利益を前提とした「経営」が営まれる直売所であり、販売量が増えることで、町民を始めとしたお客様のにぎわいと、生産者の持ち込み量が確保されている。

商品知識豊富な店員がいて、町内産の農産物の価値（旬・安心・食べ方などの情報）を知ることができ、箕輪の土地で育った食べ物を買いたい理由を作る。

こんなものが欲しい、というお客様のニーズと生産者を結ぶ。軽トラ市や朝市など、訪れる人が生産者と直接出会える。

○加工所

町民の利用をすすめ、地産地消が進むことを目指して加工所びらきを行う。季節的に取れすぎる・自家消費以上にできる農産物を町民から受託加工し、加工品にすることで捨てずに楽しむことや、学校給食、特に中部小・中学校といった大規模校の一次加工、果樹団地に隣接するメリットを生かした商品開発、上伊那地域にないジュース加工場としての整備、複数ある製造免許と設備を活かした起業支援の場など、加工所の施設と設備を最大限に利用していく。

○農家レストラン たべりこ

町の農産物の美味しさを伝える、という本来の目的に沿った運営が望まれる。メニューはロスの多いバイキング方式から一品メニューにし、地元の人が日々使える・行きたくなるメニューへの見直しや周辺の果樹団地の旬に合わせた軽食の提供、それに合わせた営業時間の変更を検討する。

○果樹団地

果樹・野菜の収穫体験を基本として、隣接する加工所を活かし、加工体験とセットにして楽しんでいただくことや、観光資源とセットにした体験カレンダーの作成により、通年体験を楽しんでいただける観光農園の開発を行う。

【特産品・にこりこー帯ならではのもの】

- ・ 加工所と果樹団地が隣接する立地とクーボを活かして、収穫したての果樹等をすぐに美しいジャムにできる「ジャムセッション」サービス
- ・ 高級ぶどうや桃といった高品質フルーツ
- ・ 質の高い9haの果樹団地
(ナガノパープル、サクラambo、ブルーベリー、モモ等)
- ・ ナガノパープルワイン
- ・ 周辺の果樹団地のフルーツを活かし、組み合わせた季節のスイーツ「SEASON MIX」
(ブルーベリーもち、フルーツトッピングかき氷、ワッフル、スムージー)
- ・ 多品種の農作物・ハーブを盛り込んだ軽食
例：ピザ、パエリア、季節のスープ、トン汁、サラダ・・・
- ・ 街道沿いを生かした「朝食」「コーヒーとパン」サービス
- ・ 打ちたてそば、そば稲荷
- ・ 西山の間伐材を生かし、薪ストーブ&サンルーム
(他にない早朝・夜間の居場所)
- ・ 農道はサイクリストに人気なことを活かした、サイクリストサービス

○追加して整備するモノ・コト

- ・ハードを作るのではなく、ソフトを作る方がいい。中身の充実が先。
- ・整備を行うなら、トータルでデザインしブランディングできるように
- ・居られる・集まれる場所
 - 田舎のライフスタイルを楽しめる、公園的なスペース
 - 日陰、ほっとする場所（植樹）、眺望を生かして眺める場所、森のような場所
- ・遊歩道、遊具、花畑 子ども、高齢者、福祉という観点から福祉施設入所者等の散歩のニーズなど
- ・既存の機能を強化するもの
 - 看板 何屋かわからないため
 - アーケード 施設間のお客さんの対流、売り場面積の拡張、休憩場所、営業していることが一目でわかる
 - 景観 電柱の地中化による山並み景観の向上。農道沿いのビューポイントは近隣にない。
 - 作業場所 にこりこ、加工所のバックヤードが狭く、作業場所の拡張
 - 駐車場 北側砂利敷きの舗装
 - 外用トイレ 店舗内にしかトイレがない為、利用者の立ち寄りの促進（大型観光バスに対応するとすれば、大型用駐車場・たべりこの席数増）

○道の駅の要否について

道の駅は必要という考え方

- ・町のブランドづくりのために
- ・また「道の駅」として期待されるレベルまで現状を改善する理由になる
- ・いずれにせよ、トイレ・情報発信施設は必要。すると結局道の駅の要件を満たしてしまうので、それならば取得しては。
- ・道の駅になることでナビで案内され、町名以上の明確なランドマークに。
- ・集客が見込まれ、出荷する農家のためにもなる。
- ・南箕輪を始め近隣でも建設予定。同じ道の駅なら特徴を出して連携する。

道の駅は必要ない、という考え方

- ・上伊那でも最後の方であり、他がやっているからやるではダメ。
- ・知名度を上げるのであれば、道の駅にこだわる必要はない。
- ・まずは中身をよくするべきで、財政的にも多額の費用を割いて作る必要があると言えるか疑問
(そもそもリニューアル自体に、それほどお金をかけるべきではない)。
- ・道の駅として来場者が持つイメージに比べられるものでないと、かえって悪印象
- ・夜間エンジンをかけたトラック駐留、たまり場化、治安の悪化
- ・24時間使用可能なトイレ、情報発信施設、駐車場などの管理コスト